

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

キャリアデザイン学研究科では、2017年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の教員が採用され、さらに、2018年度着任を目指して調査研究法（基礎科目）担当教員の人事案件が進められるなど、コースワークとしてのカリキュラムのさらなる充実が図られている点が評価できる。

大学院教育では理論と実践を重視することから就業経験が応募条件の一つになっており、学部生が大学院に進学する上でのハードルとなっているが、2017年度にはキャリアデザイン学部の卒業生が就業経験を積んだ後、本大学院を受験し合格するというケースが出現している。今後は、学問領域の特性を勘案したうえで学部と大学院の連携を図るとともに、大学院教育のグローバル化といった視点から、留学生の受け入れについても継続的な検討がなされることが期待される。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2016年度末に定年退職した教員の補充として、2017年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の専任教員が採用された。さらに、キャリア調査研究法基礎（基礎科目）担当教員の人事が完了し、2018年度より専任教員が着任した。2017年度末に定年退職した教員の補充人事も行われ、キャリアカウンセリング論（共通科目）の専任教員が2018年度より採用された。このように、キャリアデザイン学の分野において豊富な教育研究経験を有し専門性の高い研究者が教授陣を構成することによって、コースワークとしてのカリキュラムは更に充実しつつある。

修士論文指導は、担当教員による指導だけではなく、研究科の他教員からも修士論文構想発表会・修士論文中間発表会などにおいて、詳しくフィードバックを受ける機会があり、担当教員による個別指導と、研究科全体での集団指導の両面において、院生の研究指導をきめ細かく丁寧を実施している。

学部との連携に関しては議論が継続されており、2017年度にも学部・大学院執行部懇談会が複数回開催され、また、学部教授会において毎回、大学院の動向を報告し、大学院教員と学部教員の間で認識を共有するなどといった、大学院と学部の連携に向けた取り組みも実施されている。キャリアデザイン学部卒業生が就業経験を積んでからキャリアデザイン学研究科を受験し合格したという2017年度のようなケースが今後いっそう増えていくことを期待している。

研究科のグローバル化に関しては、留学生の応募者は存在する。しかし、試験当日に棄権をしたり、入試成績が合格レベルに達しておらず、厳正な入試の結果、入学には至っていなかったりするのが現状であり、現在は外国籍の院生は在籍していない。今後も継続してグローバル化へ向けた努力課題とするが、研究科においてはグローバル化に対する意識は高く、2017年10月21日（土）には、「グローバル人事のフロンティア：日本の人事はどう変わったか」と題するキャリアデザイン学研究科シンポジウムを実施し、日本の人事のグローバル展開をテーマとしたセミナーを行った。外国籍で働いている人が関心を持つようなテーマをシンポジウムで扱う、という2016年度質保証委員会のアイデアが具現化され、例年と同程度の聴衆が集まり、盛況のうちに終了したことからすると、今回のシンポジウムは、キャリアデザイン学研究科のグローバル化へ向けた取り組みとして、一定の成果をあげたと言える。なお、最近では、外資系企業の経営戦略やグローバル人事などの研究を修士論文のテーマに掲げる院生が増えており、そうした問題意識を持つ院生のニーズに即した指導を教員はきめ細かく行っている。すなわち、キャリアデザイン学研究科においては、教育研究活動のグローバル化も進展している。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

キャリアデザイン学研究科では、2018年度に着任する「キャリア調査研究法（基礎科目）」担当の専任教員、ならびにキャリアカウンセリング論の専任教員も採用されたことにより、コースワークとしてのカリキュラムの充実が着実に進められている点は高く評価される。

学部学生の本研究科への進学を促すために、学部・大学院執行部懇談会が複数回実施されるなど相応の連携が図られており、また就労経験を経たキャリアデザイン学部卒業生の受け入れも実現し、対応されている。留学生の受け入れをはじめとするグローバル化へ向けた課題については、継続的な検討が期待される。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【理念・目的】

キャリアデザイン学研究科の理念・目的は、「自由を生きぬく実践知」をふまえ、経営、教育、文化、心理の四つの専門分野をバックグラウンドにしなが、個人のキャリアを学際的に明らかにするとともに、企業、公共団体、NPO、大学・高校などにおいてキャリア支援、キャリアサポートをになう高度職業人の養成にある。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※大学院学則別表（ ）

キャリアデザイン学研究科は、「企業、公共団体、NPO、大学・高校などにおいてキャリア支援、キャリアサポートをになう高度職業人の養成」という教育目標のもと、以下に示すような能力等を有する専門家および高度職業人を育成する。

1. 職業人としてのキャリア形成、仕事と家庭生活の両立、これから社会に出ていく若者のキャリア形成など、キャリアにかかわる複雑で多様な諸現象を学際的に研究する専門能力を有する人材
2. 1 で提示したキャリアにかかわる諸問題の背後に存在する、課題に直面した人々を支援するマインドを持った人材
3. 多様な人材の活用に伴う企業の人材採用・育成方針の変化や雇用形態の多様化、企業人のグローバル・キャリアへの対応や留学生のキャリア支援などの様々な現代的な課題を適切に理解し、対処できる人材

①研究科（専攻）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②研究科（専攻）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	

（～400 字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

大学院生の研究成果物や修士課程修了後の継続的研究活動、学会発表・学会誌への論文投稿などの具体的成果、また、修了生の社会における幅広いキャリア支援活動の報告などを通して、キャリアデザイン学研究科が掲げる理念・目的が具体的に達成されているかを定期的に検証している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①研究科（専攻）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか	

（～400 字程度まで）※具体的な周知・公表方法を記入。

キャリアデザイン学研究科の理念・目的は、募集要項、ホームページ、毎年開催されるキャリアデザイン学研究科の公開シンポジウム、大学院紹介の冊子などを通じ教職員および学生、受験生等に明示され広く社会に公表し周知されている。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
理念・目的が各種の方法によって広く公表・周知されていることをベースとした上で、院生の在学中および修了後の研究活動が活発であり、とりわけ社会人を対象に高度職業人を養成する研究科であることによって、修了生の実社会における幅広いキャリア支援活動が展開されており、それが研究科としての理念・目的の検証を具現化している。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科の理念・目的は「自由を生き抜く実践知」を掲げる大学の理念・目的にかなったものとして適切に設定されており、個人のキャリアを学際的に明らかにし、キャリア支援やキャリアサポートをになう高度職業人の養成をめざすなど、その方向性は明らかである。

同研究科の理念・目的は学則において明示されている。その適切性の検証は特定の組織が行うのではなく、主に研究成果の発表や報告、修了生の実社会における幅広いキャリア支援活動を介し研究科の構成員である個人に任されている。理念や目的は一定の普遍性を持ちながら、外的・内的環境の変化に応じて適切性を確認されるべき特質があることから、具体的な検証プロセスの確立が期待される。理念・目的は募集要項、研究科 HP、公開シンポジウム、大学院紹介冊子など

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

に掲げられ、周知・公表されている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

① 質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

・質保証委員会だけではなく、常に定例教授会においても、機会あるごとに質保証に関する話し合いや点検を実施し、積極的な意見交換や問題提起を行い、検証を行っている。また年2回開催の質保証委員会では（2016年度は2016年5月20日と2017年3月17日、2017年度は2017年5月19日と2018年3月16日）、授業改善アンケート、修士論文評価と指導の在り方、外国籍の大学院生の受け入れ、調査法授業の展開の仕方、グローバル化に対応したシンポジウムのアイディア等に関する議論を行い、研究科の質保証を意識した委員会活動、具体的な取り組みを実施している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・年2回の質保証委員会における点検のみならず、月ごとの定例教授会でも質保証についての議論や検証を随時行っている。他研究科に比べ小規模な研究科であることのメリットの一つとして、小回りのきく機動性が挙げられるが、質保証をめぐる教員全員参加型の掘り下げた意見交換の機会を随時持つことができるのは、そうした機動性に基づいたことである。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では2017年度に質保証委員会が2回開かれ、同委員会は適切に活動している。議題は2016年度と同様（授業改善アンケート、修士論文評価と指導のあり方など）であり、一定の継続性が認められる。なお毎月の定例教授会においても質保証に関して活発な意見交換や問題提起が行われている。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

「経営学、教育学と隣接する学問分野をバックグラウンドにした個人のキャリアの学際的な解明」、「企業、公共団体、NPO、大学・高校などでキャリア支援を担う高度職業人の養成」という教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、学際的な専門知識をベースにしながら、自らの職業経験を生かした研究課題を設定し、社会調査の手法を駆使して、実証的な課題解明ができることを重視する。

① 研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

基礎・共通科目をベースにキャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2分野のプログラムを設置している。

それぞれのプログラム科目には、キャリア発達科目群、キャリア・プロフェッショナル科目群、キャリア政策可科目群という、マイクロ・メゾ・マクロの3分野からなる科目群を配置している。

それらの科目の履修の上で演習科目において修士論文指導を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい いいえ
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい いいえ
【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。 ・募集要項、ホームページ、シンポジウム、進学相談会、シラバス等	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(~400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性に関しては、大学院教授会において、機会あるごとに定期的に振り返り、全教員参加の討議を通して、当面の課題を整理し改善提案を行い、実行可能な所から具体的に行動に移している。また、学生による「授業改善アンケート」結果からも研究科のあり方や適切性を検証する貴重な資料として精査し検討を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・授業改善アンケート	
3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(~400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 当研究科は①キャリア教育・発達プログラム、②ビジネスキャリアプログラムの2つのプログラムより編成され、各プログラムに対応するプログラム科目が設置されている。コースワーク基礎科目、共通科目が設置され、その上でリサーチワークに対する個別指導(修士論文指導、演習)を行っている。教育課程を体系的に編成し、関心のある研究テーマを掘り下げることが可能となるように綿密に組み立てられている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科カリキュラム	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 ・博士後期課程を設置していないため該当なし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
(~400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 ・博士後期課程を設置していないため該当なし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・博士後期課程を設置していないため該当なし	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(~400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 2016年度末に定年退職した教員の補充として、2017年度より、職業キャリア政策論(ビジネスキャリアプログラム科目)担当の専任教員が採用された。さらに、キャリア調査研究法基礎(基礎科目)担当教員の人事が完了し、2018年度より専任教員が着任した。2017年度末で定年退職した教員の補充人事も行われ、キャリアカウンセリング論(共通科目)の専任教員が2018年度より採用された。このように、キャリアデザイン学の分野において豊富な教育研究経験を有し専門性の高い研究者が教授陣を構成することによって、コースワークとしてのカリキュラムは更に充実しつつあり、専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学研究科シラバス	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(~400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 留学生の応募者も数名だけが存在するが、当日入試を突然棄権したり、また、残念だが入学合格基準を満たす質の高い留学生の応募者がいないのが現状である。キャリアデザイン学研究科は、学生の質を重視し質保証の観点からも、現在留学	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

生は存在せず、研究科のグローバル化には至っていない。今後は合格基準を満たす質の高い留学生の応募を期待し、入学チャンスを与え、グローバル化を積極的に推進したいと考えている。日本語運用能力が十分あり、就業経験も有しており、かつ本研究科で研究に取り組むことに強い意欲がある留学生がいる場合には、積極的に受け入れたい。

研究科においてはグローバル化に対する意識は高く、2017年10月21日(土)には、「グローバル人事のフロンティア：日本の人事はどう変わったか」と題するキャリアデザイン学研究科シンポジウムを実施し、日本の人事のグローバル展開をテーマとしたセミナーを行った。外国籍で働いている人が関心を持つようなテーマをシンポジウムで扱う、という2016年度質保証委員会のアイデアが具現化され、例年と同程度の聴衆が集まり、盛況のうちに終了したことからすると、今回のシンポジウムは、キャリアデザイン学研究科のグローバル化へ向けた取り組みとして、一定の成果をあげたと言える。なお、最近では、外資系企業の経営戦略やグローバル人事などの研究を修士論文のテーマに掲げる院生が増えており、そうした問題意識を持つ院生のニーズに即した指導を教員はきめ細かく行っている。すなわち、キャリアデザイン学研究科においては、教育研究活動のグローバル化も進展している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シンポジウムのちらし、院生の修士論文

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・入学直後のオリエンテーションの時に、大学院要項、講義要項を参考にしながら、大学院での2年間の学習を展望した履修指導を行っている。シラバスに基づき、その場で全教員が授業概要を具体的に説明し、履修指導を適切に行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学研究科シラバス、新入生ガイダンス資料

②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

【研究指導計画の明示方法】※箇条書きで記入(ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す(学位取得までのロードマップの明示等))。

- ・新入生ガイダンスでは学習指導を詳しく行い、修士論文執筆に至る流れや学位取得への過程、学位取得基準を詳しく説明している。ガイダンス後には、その日の午後に開催されるM2の修士論文構想発表会に入学直後の1年生全員を参加させ、研究発表を聞かせている。そこでは、M2の研究テーマと概要一覧を配布し、大学院での今後の研究の計画・進め方の具体的参考とさせている。

【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。

- ・新入生ガイダンス資料

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。

新入生には具体的な学位授与基準をオリエンテーション時に明示し、学位取得に至る過程について詳しく説明を行っている。また、年3回(MIの修論構想発表会：1回、M2の修論構想発表会・修論中間発表会：合計2回)の修論構想発表会・修論中間発表会を全教員、全学生参加のもとで開催している。この発表会を、キャリアデザイン学研究科における院生の研究に対する集団指導の場としている。その後、研究計画に基づき、担当教員が個別に指導を実施し、修士論文作成指導を丁寧に実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・新入生ガイダンス資料、発表会における院生のレジュメ

④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入(取組例：執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。

- ・シラバスの内容については、執行部(専攻主任、専攻副主任)が詳しくダブルチェックし、改善すべき点があれば直ちに修正依頼を行い、修正後にも確認を行っている。また、学生による授業改善アンケート結果を詳しく分析し、シラバスに関し指摘されている課題は、教授会の議題として詳しく取り上げ、全教員で課題を共有しシラバスの検証を絶えず行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・学生からの授業改善アンケート内容については、教授会で全教員が共有し、シラバスに沿って適正に授業が行われているかの検証を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 ・成績評価は各教員が責任をもち厳正に単位認定を行っている。論文審査については主査（1名）・副査（2名）が審査を担当し、口述試験後は審査結果を主査、副査で照合し、相互に率直な意見交換を行い最終評価を厳正に行い合否を決定している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【学位論文審査基準の明示方法】 ※簡条書きで記入。 ・学位基準は2011年に教授会において決定し学位授与基準を明確化している。学生には、入学後のガイダンスにおいて、学位基準を詳しく説明し明示している。また、修了生の修士論文集として「研究成果物」を冊子やCD-ROMにまとめ、院生全員に配布しており、学位論文の審査基準は研究成果集を通して明示し、あらかじめ学位基準に関する理解を促している。	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・キャリアデザイン学研究科「研究成果物」	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※簡条書きで記入。 ・学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、学位水準を適正に維持する努力を常に行っている。修士論文提出者に対する学位授与率はほぼ100%である。また学位取得までの年限は約90%強が2年間の修士課程を経て学位を取得している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 入学時の新生ガイダンスにおいて、学位基準を周知徹底させ学習に取り組ませている。年3回の修士論文構想発表会・中間発表会の場において、厳しいフィードバックを行い研究科一丸となって、高い研究水準を維持する取り組みを実施している。また、修士論文審査は主査（1名）、副査（2名）に加え、同席しているプログラム内の他教員も加わり審査を行い、それを教授会全体で承認するという手続きを行い、論文審査における適正性を確保し、学位水準の維持を努力するための取り組みを行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【修士】 （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。 学位授与基準に基づいた厳正な論文審査を行うことにより、学位水準を適正に維持する努力を常に行っている。修士論文審査は主査（1名）、副査（2名）に加え、同席しているプログラム内の他教員も加わり審査を行い、それを教授会全体で承認するという手続きを行っている。主査・副査を基軸としそれを含む教授会全体の責任体制のもとで、論文審査における適正性を確保し、学位水準の維持を努力するための手続きを執り行っている。	
【博士】 （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。 ・博士後期課程を設置していないため該当なし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・キャリアデザイン研究科の学生は、現職を有する社会人のみであるため、入学時に学生の勤務先を把握している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>キャリアデザイン学研究科では、知識の吸収にとどまらず、講義や演習、修論構想発表会・修論中間発表会などの機会を通じて、学術論文のサーベイ能力、レポート能力、プレゼンテーション能力、論理的思考能力、問題解決能力など、より専門的なニーズに応えうる能力の開発に力点を置いている。そうした能力の応用的定着とその成果を把握するべく、講義や演習、修論構想発表会・修論中間発表会などを通じて、知識の吸収にとどまらず、多様な研究発表の機会を与えることで、研究の進捗、能力の向上を適宜、測定している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・院生・修了生の学会発表、論文一覧</p>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <p>各授業内では個別の研究発表、討論、事例研究発表、課題提出などを実施し、学生に多様な研究発表の機会を与え、授業の理解度、その成果等を随時把握している。年3回の修論構想発表会・修論中間発表会においては、研究の進捗度や研究の深化レベル、研究の質を定期的に把握し指導を行っている。他に、修了生の学会発表、学会誌への論文投稿、出版物などからも、大学院での学習、研究成果を測定している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・院生・修了生の学会発表、論文一覧</p>	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>質保証委員会や定例教授会において、随時、学習成果の検証とそのフィードバックについて意見交換や問題提起を行い、教育の改善・向上に向け、研究科の質保証を意識した取り組みを実施している。個々の授業や演習をはじめ、修論構想発表会・修論中間発表会などの機会において、院生の理解度、研究進捗度をはかり、絶えず教育内容、教育方法のブラッシュアップを心がけている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・修論構想発表会・修論中間発表会の一覧表</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>学生による授業改善アンケート結果を執行部2名がまず詳しく検討し、その内容を教授会において全教員で共有し、各教員に結果をフィードバックしている。教育成果、教育内容・方法などの改善内容を教授会にて議論し、組織的に学生からの授業改善アンケート結果を有効に活用し、絶えず教育、指導の質的向上努力を熱心に行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
個々の教員による講義、演習に加え、修論構想発表会（2回）・修論中間発表会といった集団指導の機会が確保されていることで、学習成果の把握が促進され、それをもとに教育の改善・向上が行われていくというプロセスが長所・特色と言える。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること（3.1～3.2）

キャリアデザイン学研究科では適切に学位授与方針を設定し、またその方針には修得すべき学習成果とその達成のための諸要件が明示されている。教育課程の編成・実施方針も適切に設定され、それにより学生に期待する学習成果の達成が可能となっている。二つの方針ならびに教育目標は募集要項、研究科 HP やシラバスなどを通じて周知・公表されている。これらの方針と教育目標の適切性に関しては、教授会において議論され、改善提案が行なわれ、実行可能な場合には速やかに対応がなされている。「授業改善アンケート」結果を用いた検証も行われている。

②教育課程・教育内容に関すること（3.3）

キャリアデザイン学研究科修士課程ではコースワークとリサーチワークが適切に組み合わせられた教育が行われている。そのカリキュラムは基礎・共通科目、プログラム科目、演習科目等によって構成され、中核となるプログラム科目群は「キャリア教育・発達プログラム」と「ビジネスキャリアプログラム」の2分野に分かれている。コースワーク基礎科目・共通科目と、リサーチワークに対する個別指導（修士論文指導、演習）が体系的・有機的に関連している。同研究科では高い専門性と豊かな教育研究経験を有する専任教員の採用により、教育・研究体制がさらに充実し、専門分野の高度化に対応した教育内容が提供されている。同研究科におけるグローバル化に対する意識は高く、関連するテーマでシンポジウムやセミナーが実施されるなど、グローバル化推進に向けた様々な取り組みは評価される。しかしながら広報活動の展開や海外協定校との連携、海外インターンシップや外国語科目の単位認定など、より具体的な方策による改善が期待される。

③教育方法に関すること（3.4）

キャリアデザイン学研究科ではオリエンテーション時に、大学院要項や講義要項を参考にしながら履修指導を行っている。その際には全ての専任教員がシラバスに基づき、具体的に授業内容を説明しており、履修指導のきめ細やかな取り組みとして優れている。研究科として学位取得までのロードマップ、すなわち研究指導計画の書面化に相当するものとして、新入生ガイダンスおよび秋の M1 ガイダンスにて学位取得までのプロセス等を説明した資料を配布している。研究と学位論文への研究科としての組織的な指導は 1 年次オリエンテーション、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会を介して行われている。シラバスは執行部（専攻主任と副主任）がその適切性を検証し、必要に応じて修正依頼ならびにその確認を行っている。また「授業改善アンケート」にシラバスに関する指摘があれば教授会の議題にあげ、検証が行われている。

④学習成果・教育改善に関すること（3.5～3.7）

キャリアデザイン学研究科では各教員の責任のもとで厳正な成績評価と単位認定が行われている。論文審査については主査・副査が審査を担当し、口述試験後に審査結果を主査、副査で照合するなど、審査の適切性や客観性が確認されている。学位論文審査基準は 2011 年に設けられ、入学後のガイダンスにおいて詳しく説明されるなど、学生への周知がなされている。今後はホームページに明記するなど、さらなる取り組みに期待したい。学位授与状況（学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年限など）は把握されている。学位の水準を保つため、修士論文構想発表会と中間発表会では厳しいフィードバックが行なわれ、また修士論文審査では主査・副査以外にもプログラム内の他教員が加わり、その結果は教授会で承認される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学位授与に関する責任体制及び手続きは明確であり、概ね適切である。
 キャリアデザイン学研究所の学生は現職を有する社会人のみであり、入学時に学生の勤務先は把握されている。
 分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標は特に設けられていないが、各種発表会にてその成果は適宜測定されている。
 学習成果は授業内での研究発表や課題提出はもとより、修士論文構想発表会・中間発表会、学会発表、学会誌への論文投稿などを通して定期的に把握・評価されている。
 学生による授業改善アンケート結果は教授会において共有し、改善すべき内容があれば改善するなど、組織的な利用がなされており概ね適切である。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。																																																		
【学生の受け入れ方針】 企業や公共団体、NPO、大学・高校などの機関で人事・教育・キャリア支援などを担当する方や、キャリアコンサルタントとして、より高度な専門職を目指している方などを対象とした受け入れ方針を取っている。																																																		
① 求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>																																																	
4.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。																																																		
① 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B																																																	
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生募集に関しては、ホームページ、募集要項、進学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆる機会を通して入学志願者に対し詳しい入試情報を提供している。</p> <p>入学選抜試験には全教員が関わり、受け入れ方針に基づいて公正な入試を実施している。入学試験結果に関しては、結果を全教員が注視し、結果の分析を行い、志願者と入試傾向、その課題を全員で共有し合い絶えず入学者選抜について検証努力を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・募集要項、ホームページ、シンポジウム、進学相談会</p>																																																		
4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行なうとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。																																																		
① 定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>																																																	
<p>(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>定員の充足率に関しては、2013年105%、2014年95%、2015年85%、2016年100%、2017年85%、2018年80%と推移している。6年間の平均は91.6%である。質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・下記定員充足率表参照</p>																																																		
<p>定員充足率（2013～2017年度） （各年度5月1日現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>種別\年度</th> <th>2013</th> <th>2014</th> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>5年平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学定員</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入学者数</td> <td>21名</td> <td>19名</td> <td>17名</td> <td>20名</td> <td>17名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入学定員充足率</td> <td>1.05</td> <td>0.95</td> <td>0.85</td> <td>1.00</td> <td>0.85</td> <td>0.94</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>20名</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>在籍学生数</td> <td>21名</td> <td>40名</td> <td>37名</td> <td>38名</td> <td>38名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>収容定員充足率</td> <td>1.05</td> <td>1.00</td> <td>0.93</td> <td>0.95</td> <td>0.95</td> <td>0.98</td> </tr> </tbody> </table>		種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均	入学定員	20名	20名	20名	20名	20名		入学者数	21名	19名	17名	20名	17名		入学定員充足率	1.05	0.95	0.85	1.00	0.85	0.94	収容定員	20名	40名	40名	40名	40名		在籍学生数	21名	40名	37名	38名	38名		収容定員充足率	1.05	1.00	0.93	0.95	0.95	0.98
種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均																																												
入学定員	20名	20名	20名	20名	20名																																													
入学者数	21名	19名	17名	20名	17名																																													
入学定員充足率	1.05	0.95	0.85	1.00	0.85	0.94																																												
収容定員	20名	40名	40名	40名	40名																																													
在籍学生数	21名	40名	37名	38名	38名																																													
収容定員充足率	1.05	1.00	0.93	0.95	0.95	0.98																																												
<p>※1 定員充足率における大学基準協会提言指針</p> <p>【対象】 大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率</p>																																																		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【定員超過の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士・博士共通	2.00 以上

【定員未充足の場合の提言指針】※改善勧告なし

提言	努力課題
修士	0.5 未満
博士	0.33 未満

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行ない、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集はホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供している。2016 年度からは、研究計画書に関する説明会を行い、志願者の入学後の研究に関する質問に対し、具体的な対応を行っている。入学者の選抜には全教員が携わり、入試結果の詳しい分析を行い、志願者とその傾向や課題を全員で共有し、入学者選抜に関する検証をその都度行っている。結果、2016 年度は定員充足率 100%を達成し、2017 年度も 85%、2018 年度 80%という高い水準を維持することができた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
社会人に対する多様なチャンネルによる入試情報提供を行っており、その結果、一定数の志願者を毎年確保できている。その上で、全教員が入試に関わり、厳しい質の担保と同時に定員充足率の適正な管理がなされている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では学生の受け入れ方針が定められ、求める学生像ならびに修得しておくべき知識等の内容や水準が明示されている。

その方針に基づいて学生募集と入学者選抜の制度・体制が整備され、入学者選抜にはすべての専任教員が関わるなど、公正・公平に実施されている。

こうした継続的な努力により同研究科は良好な入学定員充足率を維持してきたが、2017 年 85%、2018 年 80%と減少傾向にあり定員が充足されていないので、入学者の学力や意欲などの質の維持をめざしながら、合格者数の適正な管理が求められている。学生募集や入学者選抜結果の検証はきわめて真摯に行われているが、減少傾向を注視し、海外展開も視野に入れた新たな募集方法や募集経路を探るなど、実効性がある方策の検討が期待される。

5 教員・教員組織

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】 (2011 年度自己点検・評価報告書より)

キャリアデザイン学という学際的な領域の性格上、経営、教育、文化、心理の専門分野の教員組織で教育・研究指導を行なうことが教員組織の編制方針であり、教員には経営、教育、文化、心理の専門領域での学識に加えて、各領域を横断

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

する学際的な研究・指導のセンスと実績がもたらされることである。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・2011年に大学院担当教員の基準を明記、資格要件、求める能力・資質を明確化している。基準に基づき高度な専門性、優れた業績をもつ研究者、調査・研究の指導が可能な教員を採用し適正に配置している。

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・執行部は研究科長（兼 専攻主任）、専攻副主任の2名から構成され、大学院教授会は月1回開催されている。その他の教員の担当する役割分担は次の通りである。質保証委員、進学相談委員、入試作問委員、シンポジウム委員、修士論文研究成果集作成委員など、各教員の担当する役割とその内容を明確化し責任体制をとり適正に実行している。

【明示方法】※箇条書きで記入。

・

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学研究科 2018年度役割分担一覧表

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

キャリアデザイン学研究科は2つのプログラムより構成されている。ベースには基礎科目、共通科目を配置している。これらを担当する教員は高い専門性を有した教育学、経営学、隣接学問分野（心理学・社会学）等の教員であり、当研究科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。

2016年度末に定年退職した教員の補充として、2017年度より、職業キャリア政策論（ビジネスキャリアプログラム科目）担当の専任教員が採用された。さらに、キャリア調査研究法基礎（基礎科目）担当教員の人事が完了し、2018年度より専任教員が着任した。2017年度末で定年退職した教員の補充人事も行われ、キャリアカウンセリング論（共通科目）の専任教員が2018年度より採用された。教員補充を適切に行うことを通して、キャリアデザイン学研究科のカリキュラムに適切な教員組織を編制している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学研究科 要項、履修手引き、カリキュラムと担当教員一覧
・下記、2017年度教員数一覧（専任）を参照

2017年度教員数一覧

(2017年5月1日現在)

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
修士	17	12	5	4

研究指導教員1人あたりの学生数：2.24人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用に関しては、学部教員採用とも密に関係づけながら、若手研究者を積極的に採用しており年齢の偏りはない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし、下記年齢構成一覧参照

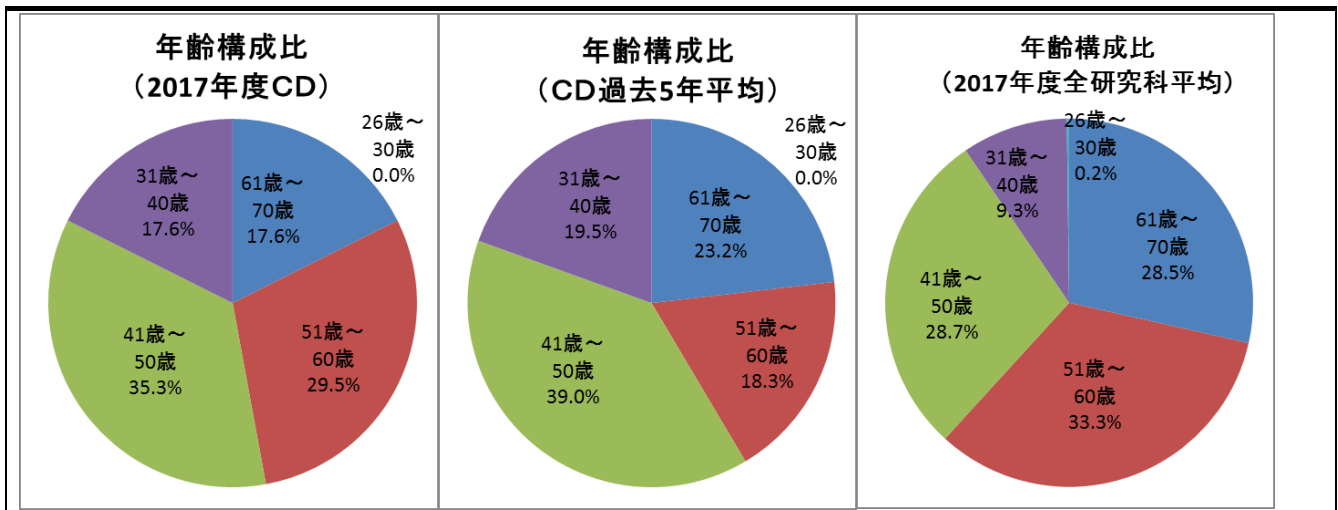
年齢構成一覧

(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人	3人	6人	5人	3人
	0.0%	17.6%	35.3%	29.5%	17.6%

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

・当研究科では2011年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格は行われている。

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。

・学部の専任教員採用の時には、大学院教育担当も兼ね大学院教育可能な研究者であることを前提とした採用を行っている。募集に際し、専門領域と大学院カリキュラムとの整合性を同時に勘案しつつ規定を参照しながら、大学院教授会において意見交換し、結果を学部の教員採用人事に反映している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・教員の募集・任免・昇格に関するキャリアデザイン学内規

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※簡条書きで記入。

・法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催しており、広く学外にも公開しキャリア関連の研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を講演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している。教員、院生、修了生、学内外の人々などと相互の自己研鑽を積極的に促進している。

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※簡条書きで記入。

・法政大学キャリアデザイン学会の活動実績資料を参照

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学キャリアデザイン学会活動実績資料

②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。

S A B

【研究活動活性化の取り組み】※簡条書きで記入。

・法政大学キャリアデザイン学会の開催、大学院シンポジウムの開催、全教員・全院生参加による修士論文構想発表会・中間発表会の開催等により、積極的に研究活動を活性化するための方策を講じている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学キャリアデザイン学会活動実績資料、大学院シンポジウム資料

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
高度な専門性、豊富な研究業績を持つ研究者がバランスのとれた年齢構成のもと、カリキュラムに適合的な教員組織を編成している。FD活動、研究活動においては、特に法政大学キャリアデザイン学会の取り組みが大きな意義を有している。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科における教員の採用や昇格の基準は明らかであり、組織的な教育を実施するための役割分担や責任の所在も大学院学則や「キャリアデザイン学研究科 2018 年度役割分担一覧表」などに明記されている。

同研究科では高度な専門性、豊富な研究・教育業績を持つ研究者がバランスのとれた年齢構成のもと、適切な補充人事が進み、カリキュラムに適合的な教員組織が編成されている。

大学院担当教員に関する規程は整備されており、専任教員採用時には学部と連携し、規程が参照されるなど、その運用は適切に行われている。

キャリアデザイン学研究科では法政大学キャリアデザイン学会を開催し、学内外から多彩な講演者を招聘して、教員の資質向上を図るための FD 活動の活性化をはかっている。また大学院シンポジウムの開催、全教員・全院生参加による修士論文構想発表会・中間発表会の開催等を通して、研究活動の維持・発展を目指している。

6 学生支援

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

キャリアデザイン学研究科の応募者には留学生も存在するが、実際には入学には至っていない。このため、修学支援は行っていないが、今後、留学生の入学者がいる場合には、修学支援を丁寧に行う予定である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。

キャリアデザイン学研究科は社会人を対象として社会的ニーズに応える高度専門人材養成を行う研究科であり、ストレートマスターを想定した狭い意味での「生活相談」とはやや異なるが、社会人が実務と研究のバランスをとっていく上でのアドバイスや、修士レベルの論文を書くのがはじめての院生に対する、修論執筆プロセスにおける学術的調査研究の取り組み方・心構えの指導など、院生からの相談に向けて全教員がきめ細やかな対応を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
社会人院生の多様化・高度化するニーズに対して、社会人院生への指導経験豊富な教授陣がきめ細やかな対応を行っている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では現在まで留学生の受け入れに努力してきているが、入学には至っていない。そのため修学支援の準備はあるものの、実施はされていない。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

同研究科の学生は現職を有する社会人であり、際しての「生活相談」とは特有のものとなるが、教授陣はきめ細やかな対応を行っており、評価できる。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教育研究支援体制の概要を記入。

現状ではキャリアデザイン学研究科に TA や RA、技術スタッフなどは配置されていないが、院生に対しては、そうしたスタッフによらずとも、個々の教員が、講義、演習、修論構想発表会・修論中間発表会などの種々の機会を通じて研究を丁寧に指導している。また、教員相互においても、FD 活動、研究活動などにおけるピアサポートの取り組みが熱心に行われており、教育研究支援体制として不足ないものとなっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では TA や RA や技術スタッフなどは配置されておらず、またその必要性は低いように見受けられる。教員の教育や研究に対する支援はピアサポートが主となっている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

キャリアデザイン学研究科の教員は、経営学、教育学、心理学、社会学などといった分野の各種学会での活動をはじめ、理論的にも実践的にも、学外の社会組織との協働に力点を置いた取り組みを行っており、社会貢献や教育研究成果の社会還元に積極的である。キャリアデザイン学は理論に裏付けられた実学であり、高度な専門職を目指す院生の学習ニーズに応えるのと同時に、社会の人材ニーズにも対応してきている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
研究科としては、年に1度キャリアに関する議論をけん引するシンポジウムを開催している。また個々の教員も、厚生労働省、財務省、経済産業省、東京都、一般・公益社団法人等からの依頼を	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

受け、その専門性を生かした審議会委員や専門委員、団体等の役員、研修講師などを務めている。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科としては学外組織との連携協力を行っていないが、公開シンポジウムによって研究成果を社会に還元し、また個々の教員は学会活動のみならず、社会のニーズに応えるべくその専門性を活かして審議会委員や専門委員、研修講師を務め、多大かつ多彩な社会貢献を行っている。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

① 研究科長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

執行部は研究科長(兼専攻主任)、専攻副主任の2名から構成され、大学院教授会は月1回開催されている。その他の教員についても、質保証委員、進学相談委員、入試作問委員、シンポジウム委員、修士論文研究成果集作成委員などをそれぞれ担当する。各教員の担当する役割とその内容を明確化し責任体制をとり適切な運営を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学研究科では研究科長(兼専攻主任)と専攻副主任の2名により執行部が構成され、大学院教授会は定例月1回開催されている。各教員により種々の委員会が構成され、それぞれに役割や責任は明確化され適切に運営されている。

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透。
	年度目標	修士論文のさらなる質的向上をはかるため、基礎・共通科目、プログラム科目の教育をいっそう深化させ、組織的・体系的なコースワークの充実を図る。
	達成指標	基礎科目、共通科目、プログラム科目(①キャリア教育・発達、②ビジネスキャリア)、演習科目という、プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性の深化を達成する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	研究科開設から5年という節目において、より一層の教育研究指導方法の向上を図る。
	年度目標	年3回の修論発表会をさらに充実させ、論文の集団指導の場としても機能させ、教員・学生ともに

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		相互啓発の場とする。
	達成指標	院生の修士論文指導を個別指導、集団指導をさらに充実させ、深化させることにより、教育研究指導方法の向上を達成する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。 研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。
	年度目標	修了生の関連学会での研究発表、学会誌への論文投稿等の継続的促進を図る。本研究科に対する社会的認知を拡大させ、優秀な応募者をさらに増やし、質保証を重視しつつも研究科の定員充足を図る努力を継続する。
	達成指標	修了生の研究論文を学会発表、学会誌への投稿などをさらに継続して促進し、キャリアデザイン学研究科の社会的認知をさらに向上させ、社会的地位を高める。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	学生募集はホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウム、研究計画書説明会など、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供してきており、このような取り組みをいっそう充実させる。
	年度目標	定員の充足率に関しては、2013年から2018年までの6年間の平均が91.6%である。質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理してきており、こうした充足率管理を継続していく。
	達成指標	入学者の選抜には全教員が携わり、志願者とその傾向や課題を全員で共有し、入学者選抜に関する検証をその都度行っている。こうした取り組みに基づき、2018年度までの高い水準の定員充足率の継続を達成する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	当研究科では2011年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格を行うことを継続していく。
	年度目標	法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催しており、学会活動を積極的に推進することで、教員、院生、修了生、学内外の人々などと相互の自己研鑽を積極的に促進していく。 法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催しており、広く学外にも公開しキャリア関連の研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を講演者に招聘し、学会活動を積極的に推進している。教員、院生、修了生、学内外の人々などと相互の自己研鑽を積極的に促進している。
	達成指標	当研究科の2つのプログラム、そしてそのベースにある基礎科目、共通科目を担当する教員は高い専門性を有した教育学、経営学、心理学、社会学等の教員である。当研究科のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持継続を達成する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	社会人院生が実務と研究のバランスをとっていく上でのアドバイスや、修士レベルの論文を書くのがはじめての院生に対する、学術的調査研究の取り組み方・心構えの指導など、全教員がいっそうきめ細やかな対応を行っていく。
	年度目標	当研究科の応募者には留学生も存在するが、実際には入学に至っていない。このため、現状では修学支援は行っていないが、留学生の入学者が生まれる場合を想定して、留学生への修学支援を構想していく。
	達成指標	近年、社会が激しく変動する中で、社会人院生のニーズはますます多様化・高度化してきており、これに対応するため、職業能力の開発にとどまらず、学び方・働き方・生き方を包含したキャリアデザインの構想を達成していく。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	キャリアデザイン学は理論に裏付けられた実学であり、高度な専門職を目指す院生の学習ニーズに応えるのと同時に、社会の人材ニーズにも対応していくことに力点を置く。
	年度目標	研究成果の積極的な内外への発信をはじめ、教員・学生と、それを取り巻く社会との間に、有機的な相互関係を構築する。
	達成指標	各種学会での活動をはじめ、理論的にも実践的にも、学外の社会組織との協働に力点を置いた取り組みを行い、社会貢献・社会連携のいっそうの活発化を達成する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【重点目標】

学生の受け入れに関する年度目標を最も重視する。これまで、質を厳しく担保しつつも定員充足率を適正に管理してきており、こうした充足率管理を継続していく。その目標を達成するために、これまで通り、ホームページ、パンフレット、入学相談会、大学院シンポジウムなど、あらゆるチャンネルを用いて入学志願者に詳しい入試情報を提供していく。2016年度から始めた、研究計画書に関する説明会も継続し、志願者の入学後の研究に関する質問に対し、具体的な対応を行う。従来通り、入学者の選抜には全教員が携わり、入試結果の詳しい分析を行い、志願者とその傾向や課題を全員で共有し、入学者選抜に関する検証をその都度行うこととする。

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

キャリアデザイン学研究科の中期目標や年度目標、重点目標はいずれも概ね適切である。

同研究科は定員充足率の管理・維持を最重点目標として挙げており、そのための様々な努力を成果につなげることが期待される。ちなみに2005年に中央教育審議会が出した『新時代の大学院教育答申』では、大学院重点化によって「実質的には応募者がほぼ全員入学できる事態」が生来しそれが解決すべき課題として認識されている。答申が出されて以来状況は変わっておらず、そうした観点からも定員充足率に注視する同研究科の目標設定は適切だろう。

達成指標は「深化を達成する」「向上を達成する」「社会的認知をさらに向上させ、社会的地位を高める」などいくぶん抽象的な内容になっている。何を以て「深化」「向上」の指標とするのかなど、年度末の目標達成状況確認時までにある程度研究科内の共通理解を醸成することが望まれる。

【大学評価総評】

キャリアデザイン学研究科は2013年度に経営学研究科の一専攻から研究科となって以来、積極的に教育・研究内容を検証し、その充実を図っている点は評価できる。キャリアデザインにおける高度な専門教育の実現は、人文社会系の学問領域においては一つの範を示すものとして学内外での重要度は大きい。同研究科における質保証への意識は高く、教員同士の意見交換が活発に行われており、その甲斐あって学位授与率はほぼ100%、2年で学位を取得する率はほぼ90%であることは特筆に値する。また入学定員充足率が減少傾向にあることを踏まえ、学部との連携や海外展開をも視野に入れた新たな募集方法や募集経路を探るなど、実効性がある方策の検討が期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。